

札幌市環境プラザ運営協議会 令和3年度第1回実施概要

- 1 日時 令和4年7月21日(木) 18:30~19:30
- 2 会場 札幌市環境プラザ
- 3 出席者
 - (1) 委員：阿部委員、大沼委員、井川委員、崎川委員、新保委員、東館委員、福田委員、下川原委員
 - (2) 札幌市：環境局環境政策課環境教育担当係長、環境政策課推進係 係員
 - (3) 事務局：(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、市民参画課係長、主任職、一般職員2名、

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ 札幌市環境局 環境都市推進部 環境政策課長 東館 雅人 様
- (3) 運営協議会について
- (4) 委員自己紹介、近況報告
- (5) 議事
 - ・令和3年度事業報告および令和4年度の計画・進捗報告
 - ・意見交換
 - ① SDGs をテーマとした見学プログラムについて
 - ② 他団体との連携について
- (6) あいさつ 札幌エルプラザ公共4施設館長 下川原 清貴
- (7) 閉会

5 議事概要

・令和3年度事業報告および令和4年度の計画・進捗報告

事務局から令和3年度の報告および令和4年度事業計画の紹介を行った。報告では、事業の進捗状況について写真・動画などを紹介した。

・環境プラザについての意見交換

市民のニーズが高まっているSDGsをテーマにした見学プログラムの作成に関するご意見やアイデアをいただきたいこと、環境プラザが重点目標としている「さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する」に関連し、環境プラザと親和性のある団体についてご意見やアイデアをいただきたい事を説明した。

(意見) さっぽろっこ環境ウィークという取組を行い、札幌市内の学校で環境について取組を行っている。環境の取組がSDGsそれぞれの項目に関連しているという事をパンフレット(https://www.city.sapporo.jp/kankyo/sdgs/documents/sdgs_leaflet.pdf)で学校に呼びかけをしている。思考を働かせる工夫で子ども達も先生も主体的になってくることを期待して取組を進めている。

(意見) SDGs というのは抽象概念の話になってしまうことがある。大人が一方向的に夢を押し付ける形ではなく、見学ツアーを体験する子どもたち自身がSDGsを身近に感じる体験をとおし、2030年に自分が、札幌が、世の中がどうなっているか想像力を持たせることが重要だと思う。

(意見) ニセコ町では教育旅行に向けた様々な受入れプログラムを行っており、その中に「SDGs ニセコロゲイン」がある。町内のさまざまなスポットに行き写真撮影SDGsとの関連について調べる。場所ごとに体験をとおして関連付けを行うことで、楽しみながら自分事にもなる。

(意見) 自身の組織でもSDGsをテーマにしたツアーの受入を行っている。希望者からは「体験がない」という話をよく聞く。SDGsという目標を学ぶために遠回りをしている状況のため、生の体験を強く求められる。また、札幌市内よりも市外地域の方がより「生」に近い体験ができる。最近の子どもたちはいろいろな情報を知っているので、「こんなものだろう」とならないようにすることが大事で、そのために地域のリアルの声を聴くことが重要になる。農家の方や漁業関係者の方の何気ない言葉が子どもや大人の心に残ることがある。だからこそ生の現場に行くことが大事なわけだが、そうしたことが地域でやり易い、という事がある。

(意見) 現場では、実感を持つ、腑に落ちる、五感で感じるというのは本当に教育上重要だと思って活動している。環境プラザのこの場を活用して、子どもに限らず大人の方でもとても身近に感じる話題を取り上げていけたらいいと思う。

環境プラザができた時代と今の時代とでは大きく変化していて、市民はいろいろなところから情報を収集するようになってきている。見学ツアーの解説でも、いいことばかりではなくリスクやデメリットについても真摯に情報提供し、やり取りができるとよい。そうすることで参加者が自分事として考えるようになると考える。

(意見) (前者の意見を受けて) メリット・デメリットお知らせし、その選択を自分事として取り入れていくという事について知らせていくべきだと考える。環境プラザには水の循環という展示物があるが、子どもたちの人気がとても高い。もう一つバージョンアップして今の気候変動の実情に合わせた工夫ができればよい。また、ごみの分別について、関心が高くなってきたことを感じる。